

平成26年10月31日

出張報告書

栗山町議会議長 鶴川和彦様

栗山町議会議員

田中武司

このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 平成26年5月24日 ~ 平成26年5月25日まで
- 2 旅 行 先 大分県九重町
- 3 目 的 市庁舎の改修工事の視察
- 4 関係書類 別紙のとおり



日 時	平成 26 年 5 月 24 ^(土) 日 ~ 25 ^(日) 日
視 察 先	大分県 九重町
調査事項	第 9 回 全国小規模自治体 県自治体フォーラム in 九重町
対 応 者	
1. 視察目的 2. 視察内容 ① 背景 ② 特徴 3. 主な質疑 4. 考 察 (感想、政策提 言、課題など)	全国の小規模自治体の首長が一堂に会し 自主と発展の道を模索する「第 9 回 全国小規模自治体 自治体フォーラム in 九重町」が全国各地から 60 町村や関連団体から、約 200 名の参加で 「自然を守り、美しい風景づくり」を全体テーマ に大分県九重町で開催された。 記念講演は、地域活性化の手立てとして「地学」 を提唱する吉本哲郎氏（熊本県水俣市）が 地域の風土や歴史を見つめ直し、住民自ら 再生に取り組む意義を説明した。 50 世帯を擁する山間地の集落（水俣市）の昔ながらの 生活道具や景観の美しい場所を案内する活動が 始め、観光客の増え、特産品売り場が作られ、エスプレッ ソは人気に上っている事例を紹介し 「あつちのち、こつちのちと愛知を大切にする地域 の「あつちのち」から取り組むことに活性化 のヒントがある。その過程に自治体や知恵が必要 になる。答えは足元にある。足元は小・中・高校と ともに大きな世界があると強調していた。 小規模自治体の魅力が町おこしにヒントを与えられた。

今回のフォーラムでは九州各地域の町村地住民の
取り組みを学びたい。特に九東町は「日本の田舎
α20-21の下 都市と農村の交流 自然と景観を
活かした取り組みを通じて 住民自身が土地に
愛着と誇りを持ち、居住生活の自律のまちづくりを
進めよう」という方針に決まっています。また、分科会、
シンポジウムの中では 自然保護の取り組み、
持続可能な社会づくり、自然保護とまち
づくりのまちづくり、そして、小規模自治体の
21世紀の「持続可能な社会」の実現を目指す
に努めることが明かされています。

今後、さらに住民の安全と安心を
実現するためには、NPOが住民一人一人の
地域に根ざり、住民とつながり、住民とつなが
る仕組みを目標として、身の丈に合った行政推進
策、持続可能なまちづくりのヒントは、自分たちの
足元に、大切なのは、それに気づくか? 気づい
ておこなうこと。

地域の活性化を図るための研究、交流、実践の
意義を述べ、NPOが地域に根ざり、

今回のフォーラムは、研究、実践、

および行政実践にむけて、

一層の努力を推進し、今後は、

1つと見えて、大層身の丈

有意義な視察、研究、考察を